

大東文化大学 東洋研究所所報

2023.1 No.78

目次

『東洋研究』と私 兼担研究員 田辺 清 …………… 1	2022年度 東洋研究所刊行物 …………… 4
2022年度 夏休み&秋の公開講座 …………… 2～3	謹んでお悔やみ申し上げます …………… 4
2023年度 夏休み公開講座 …………… 4	

『東洋研究』と私

大東文化大学 東洋研究所 兼担研究員 田辺 清

1987年4月に大東文化大学国際関係学部専任講師として着任して以来、35年半を経過し、来る2023年3月には定年退職を控えている。アジア各地域の研究を主体とした所属学部では講義・研究共、本学の開校当時の理念である「東西比較」を絶えず念頭に入れながら学生や同僚と接した日々であった。そんな中、私の記憶では助教授(現在の准教授)時代の1998年前後から本学・東洋研究所に研究員として参加させて頂き1999年11月発行の第133号から『東洋研究』掲載論文の執筆陣の末席を汚し続けている。因みに『東洋研究』デビュー論文のタイトルは「絵画にみられる楽器描写—東西の比較を中心に—」(pp.51-60)であった。その後も風景画、素描、肖像画といった私自身の従来の研究テーマを素材に「東西比較」や「東西交流」という視点を生かしながら論文制作を重ねていった。時に厳しくも有難い数々の、ご指摘を受けながら『大東文化大学紀要』への投稿論文と併せて研究者としての成長の証を求めてきたのも確かである。言うまでもなく未だ一研究者としては未熟な身ではあるが生涯、研究成果を可能な形で公表していくのが責務であると思っている。

私は出身校の成城大学文芸学部芸術学コース(現芸術学科)に在学中から、ひたすら西洋美術の研究一本やりで日頃の関心もヨーロッパ文化全般に向けてはいたがフェノロサの『東亞美術史綱』(1947年・創元社)等のテキスト講読を通して無意識のうちに「東西比較」への意識は形成されていった様である。学部時代そして大学院(成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻)在籍のほぼ15年間においても聴講生としての留学期(ロンドン大学付属コートールド美術研究所、1978年9月～1981年9月)を挟んでヨーロッパ美術への追究は現在のテーマでもあるレオナルド・ダ・ヴィン

チ(1452-1519)の素描を中心に更に加速していった日々であった。それでも留学時にあっては、しばしば日本人である事や東洋人としてのアイデンティティを意識する事があり、その視点の必要性を感じたのも事実であった。

その意味では成城大学大学院博士課程を単位取得退学して間もなく縁あって本学国際関係学部就職できたのは運命的であった。留学時からの研究テーマであった「風景画の変遷」について講義や学部内研究会で話すためには当然、東洋における山水表現や理念についても言及する必要があったからである。そして美術史での「東西比較」は風景のみならず静物や人物を表した作品にも及び講義や研究の幅を広げる事に努めたのであった。その成果を『東洋研究』に前述の第133号から第153号(2004年11月)に至るまで5回にわたって掲載したが、やや雑駁な議論に終始した嫌いがあり、その都度、反省を迫られたと言っていい。

そこで私は学部生以来、関心を持ち続け卒業論文や修士論文のテーマにしたレオナルドやラファエッロ(1483-1520)を始めとするレオナルドの影響下にあった画家たちを採り上げ、彼らの作品の持つ東方性や東洋性を考察する方向へとギアチェンジを試みたのである。

その試みが『東洋研究』第157号(2005年11月)の「ラファエッロの素描—古典古代の起源と東方—」(pp.25-31)を契機として『東洋研究』第216号(2020年7月)の「再考・レオナルド・ダ・ヴィンチと東方」(pp.69-80)に至るまでの6篇の論考に発表した内容に反映されたという事になる。

(たなベ きよし 東洋研究所 兼担研究員・国際関係学部 国際文化学科教授)

2022年度 夏休み公開講座「沙漠の人間像を求めて—大野盛雄の中東研究—」

2022年度 東洋研究所 夏休み公開講座は、大東文化大学「平成三十年度私立大学研究ブランディング事業」の一部として、「沙漠の人間像を求めて—大野盛雄の中東研究—」を統一テーマに下記の通り開催された。各講座の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2022年7月16日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

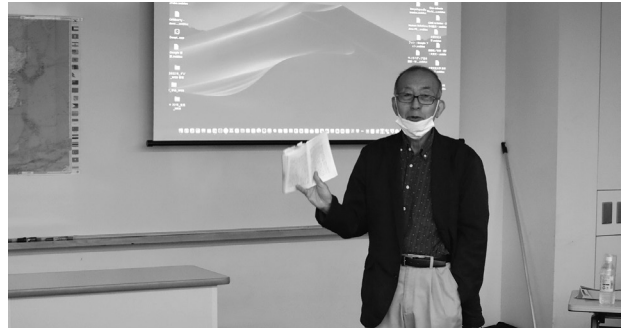
テーマ：「『大野盛雄フィールドワークの軌跡』—写真記録から読み解く」

講師：原 隆一（東洋研究所 兼任研究員・大東文化大学名誉教授）

大野先生は経済地理学、文化人類学的視点からイラン、アフガニスタン、それにトルコなど中東地域の長年の農村フィールド調査によって現地の自然、歴史、文化などを解き明かそうとしてきた学者である。現在、東洋研究所から『大野盛雄フィールドワークの軌跡』(全5巻シリーズ)を刊行中で、4巻まで出版済みである。また、大野氏自身の著作三部作である①『アフガニスタンの農村から—比較文化の視点と方法』(岩波新書、1971年)、②『イラン日記—疎外と孤独の民衆』(NHK ブックス、1985年)、③『イラン農民の25年のドラマ』(NHK ブックス、1990年)も紹介した。

今回は、大野氏のおよそ半世紀に及ぶ中東地域の現場

研究の学術的成果を一次資料と写真などを使いながらその背景を解説した。



◇第2回 2022年7月23日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「私と大野先生、50年前のイラン農村調査の思い出」

講師：南里 浩子（東洋研究所 兼任研究員）



故大野盛雄先生の研究は多岐に渡っているが、その中でも私自身が関わったイランの農村研究を中心にご紹介させていただいた。日本とは違って多民族、多言語、多宗教が混在するイランの複雑な状況を解説しながら、大野先生がどのようにしてイランの「典型的な」農村を吟味し選別して調査村を選んだかということも解説した。また簡単にイランの近現代の歴史を解説した上で、具体的な1つの農村の今日の状況を説明して、最後にスライド写真を見ていただいた。

◇第3回 2022年7月30日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

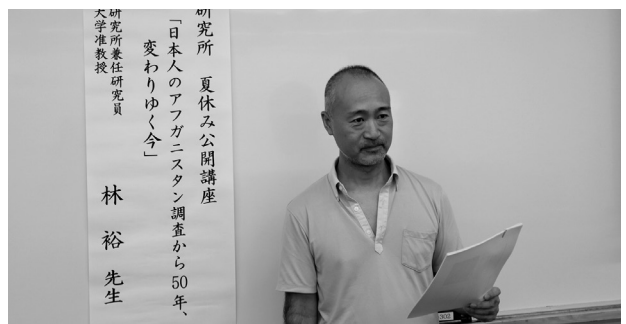
テーマ：「日本人のアフガニスタン調査から50年。変わりゆく今」

講師：林 裕（東洋研究所 兼任研究員・福岡大学准教授）

アフガニスタンと日本とのかかわりあいを1930年代から現代までに続くまで俯瞰しつつ、現在のアフガニスタン情勢までを扱った。

第2次世界大戦以前のから、日本はアフガニスタンとの関係を結んできた。そこには、現地で農業指導に当たってきた日本人農業技官、詳細な現地調査を行ってきた日本人研究者である大野盛雄氏などがいた。それらの先人たちの歩みに導かれて、現代のアフガニスタン研究がある。とくに、2021年8月15日のカーブル陥落は、現代アフガニスタンが抱える困難さを端的に示した事象である。

今回の講義では、これらの日本人農業技官の実践や詳



細な現地調査研究を行った研究者の足跡を辿り、その背景と意味を問い解説してみた。

2022年度 秋季公開講座 「アジアの民族と文化」

2022年度 東洋研究所 秋季公開講座は、伝統の「アジアの民族と文化」を統一テーマに下記の通り開催された。各講座の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2022年11月10日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「中国の歴史学と歴史書の特徴―『史記』と『漢書』を中心に―」

講師：小林 春樹（東洋研究所 専任研究員・教授）

「歴代王朝の正しい歴史的記録」を意味する熟語であると考えられている「歴史」であるが、それが成立した中国における本来の語義は、新たに成立した王朝がみずから「天命」を授かった正統王朝であること、その一方で、滅亡した、前代の王朝が「天命」を喪失した非正統の存在であること証明するために、国家的事業として編纂した著作、であるとされてきた。それは、歴史愛好家ともいえる個人が自分の興味ある事件（おもに戦争）の経過、結末、原因などを「探求した」、すなわち「歴史エーした」古代ギリシャのそれら、「万世一系の天皇と天皇家」の支配の正統性の証明を最大の目的とした日本の歴史書とも異なる、中国独自の「文化遺産」である。



◇第2回 2022年11月17日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「レオナルド・ダ・ヴィンチと古典古代―東方・東洋との関連について―」

講師：田辺 清（東洋研究所 兼担研究員 国際関係学部国際文化学科教授）



「万能の人」と呼ばれているイタリア・ルネサンス期の巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチ（1452-1519）の116冊以上に及ぶ「蔵書リスト」（『マドリッド手稿』Ⅱ他）からはプリニウスの『博物誌』を始めとする古典古代の書物が散見され、美術家のみならず哲学者・科学者としての実像が垣間見える。近年の研究に拠れば古代ローマの詩人・哲学者ルクレティウスの自然観が《岩窟の聖母》等のレオナルドの絵画作品にも反映されているという。

講師は予めからレオナルド絵画の東方・東洋的な描写について考察しており本講義ではレオナルドの蔵書から、その絵画や素描の制作背景を検討した。

◇第3回 2022年11月24日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「中国とロシア（ソ連）―プーチンさん、あなたは憎む相手を間違えているのではないですか？」

講師：岡崎 邦彦（東洋研究所 所長 専任研究員・教授）

2022年2月、ロシアのプーチン大統領はウクライナへ侵攻し、ナチズムとアメリカの関与を批判し、中国の支援を期待した。プーチンの怒りはソ連を崩壊へと導いた欧米に向けられているが、はたしてソ連を崩壊へと追いつめて行ったのは、西側欧米だけであろうか。そこで中国とソ連の関係史を見直し、ソ連崩壊後の中ロ関係について、さらに中国の対ソ戦略、その後のロシアとの安全保障について、私見を述べさせていただいた。



2023 年度 夏休み公開講座

東洋研究所では、2023 年度も秋の公開講座のほかに「東洋を知ろう！」をテーマに夏休み公開講座を予定しております。定員については、コロナ禍の状況次第で変動することを想定し、現時点では未定とします。2022 年度は 15 名でした。受講料は無料です。都合により、講師の順番が入れ替わることもあります。

日 程 (予定)	講 師	テ ー マ
2023 年 7 月 22・29 日及び 8 月 5 日の土曜日 10 時 30 分～12 時 00 分 3 名の講師により、開講 ※本講座では、東アジアと西アジアの思想や哲学の分野に関わるいくつかのテキストを取り上げ、それらがどのように伝わり、そして解釈されていったかを考えてみます。	大東文化大学 東洋研究所 専任研究員 教授 栗山 保之	『『コーラン』を考える』(仮題)
	大東文化大学 東洋研究所 専任研究員 准教授 田中 良明	『『史記』の本紀は帝王の記録か?』(仮題)
	大東文化大学 東洋研究所 兼任研究員 文学部中国文学科講師 高橋 睦美	「皇帝が解釈した『老子』」(仮題)

■会 場：大東文化会館 研修室 (詳細は未定)

■交 通：東武東上線『東武練馬駅』下車徒歩 3 分

◆詳細な内容 (日程、会場、定員) が決定しましたら、追って大学ホームページ等に掲載いたします。

2022 年度 東洋研究所刊行物

- ・ 東洋研究 第 224 号 (2022 年 7 月 25 日発行) 第 225 号 (2022 年 11 月 25 日発行)
 - 第 226 号 (2022 年 12 月 25 日発行) 第 227 号 (2023 年 1 月 25 日発行予定)
 - ・ 『藝文類聚 (巻五十一) 訓讀付索引』 (東洋研究所研究班 2023 年 2 月発行予定)
 - ・ 『天文要録』の考察 [四] (東洋研究所研究班 2023 年 2 月発行予定)
 - ・ 『茶譜』巻十三 注釈 (東洋研究所研究班 2023 年 2 月発行予定)
- ※ この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

◆謹んでお悔やみ申し上げます◆

- 進藤 英幸殿 (元東洋研究所兼任研究員) (2021 年 12 月 15 日)
- 濱 久雄殿 (元東洋研究所兼任研究員) (2022 年 6 月 29 日)
- 西林 昭一殿 (元東洋研究所兼任研究員) (2022 年 7 月 8 日)
- 山田 準殿 (元東洋研究所長・東洋研究所教授) (2022 年 8 月 9 日)
- 関口 栄一殿 (元東洋研究所事務室事務長) (2022 年 9 月 26 日)
- 福田 俊昭殿 (元東洋研究所長・東洋研究所教授) (2022 年 12 月 5 日)
- 近藤 邦康殿 (元東洋研究所兼任研究員) (2023 年 1 月 6 日)

刊行図書取扱店

■(有)池上書店

〒175-8571 板橋区高島平 1-9-1 大東文化大学 2 号館 B1
TEL: 03-3932-7567 FAX: 03-3932-7544
E-mail: ike-book@smail.plala.or.jp

■汲古書院

〒101-0065 千代田区西神田 2-4-3 高岡ビル 4 F
TEL: 03-3265-9764 FAX: 03-3222-1845
E-mail: kyuko@fancy.ocn.ne.jp

■大東文化大学内購買部(株)進明堂書店

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿 560
TEL: 0493-34-4430 FAX: 0493-34-5622
E-mail: info-daigakuten@shinmeido.co.jp

■東方書店業務センター

〒175-0082 板橋区高島平 1-10-2
TEL: 03-3937-0300 FAX: 03-3937-0955
E-mail: tokyo@toho-shoten.co.jp

大東文化大学 東洋研究所 所報 No.78

2023 年 1 月 25 日発行

印刷：(株) 東京技術協会

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>